

BLM 運動に学びながら編集する

Editor's Comment: Learning from Black Lives Matter

小田原 滯
ODAWARA Mio

東京外国語大学出版会
Tokyo University of Foreign Studies Press

キーワード
編集 デザイン BLM

Keywords
Book editing; Book design; BLM

Quadrante, No.25 (2023), pp.35–36.

2020年度から2021年度にかけて、東京外国語大学でオンライン連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶこと——多文化共生、サステナビリティについて考えるために」が開かれました。第4回が終わった2021年のはじめに、セミナーを中心となって企画・運営されていた武内進一先生と中山智香子先生が、セミナーを再構成した書籍化の企画を東京外国語大学出版会に持ち込まれました。同年3月の編集委員会を経て、わたしが編集を担当することになったのですが、セミナーの段階で本書の主旨も執筆者もテーマの分担も決まっていたし、お二人がセミナーに続いて書籍でも編者として舵を取ってくださることになっていましたので、わたしはいかに読者に届けるか、という役割に徹することができました。

セミナーの臨場感が残る文字起こしの部分も一部ありますが、ほとんどはセミナーに基づいた書き下ろしの論考です。講義録ではなく書き下ろしであることは、書籍化企画の当初から決定していました。セミナーの録画動画が公開されていますが、本書ではセミナーの一步奥に

ある学びが展開されていると感じています。

集稿後、しばらくは別のタイトルで編集が進みましたが、セミナーのタイトルが本書のメッセージを端的に表していることに立ち返り、セミナーと近似した『ブラック・ライヴズ・マターから学ぶ』に決まりました。一方でわたしは、書店でこの本を目にする人が『『学ぶ』とは言っても、何を学ぶことができるのか』と考えるのではないかと予想しました。BLM 運動にかんする書籍がすでに数冊、刊行されていたこともあり、差別化を図らなくては、という思いもありました。

そこで編者のお二人に、学ぶことの内容を、つまり執筆者が BLM 運動から学んだことや、この本から学んでほしいと思うことを、いくつかピックアップして、サブタイトルに示すことを提案しました。もとより本書は、諸分野・諸地域を研究対象とする多数の執筆者が寄稿しますので、すべての分野・地域を挙げることはできません。例としてわたしが挙げたのは、レイシズムやジェンダー、ヒューマニズムなどでした。



お二人は検討してくださった末に、わたしの提案は「腑に落ちない」とおっしゃって、「アメリカからグローバル世界へ」という文言をご提案くださいました。BLM 運動がアメリカに止まらず世界に波及していったことは、BLM 運動に学び、触発される人が世界中にいた証左であり、またこのセミナーや書籍の成り立ちも、その流れのなかにあることが示されたサブタイトルであると、わたしは一も二もなく納得しました。

そして同時に、先のわたしの提案が安易であったことを反省しました。サブタイトルとして取り上げようとしていた分野は、耳目を引きそうである、語呂が良いといった、資本主義的にウケが良いという観点であっただろうと思い至ったためです。さまざまな問題が、長らく問題であつたにもかかわらず、顧みられなかったり、見えないものにされたりしてきました。BLM 運動がそれらを可視化したにもかかわらず、この本の編集担当であるわたしが、またふたたび、見える問題と見えない問題に振り分けようとしてしまったわけです。

そうはいっても、内容を少しでも伝えたいという思いもくすぶったままでした。そこで帯を工夫することにし、表紙の帯文は以下のようにしました。

〈黒〉から想起せよ

黒人への圧倒的な暴力や差別が続くアメリカで、ブラック・ライヴズ・マター運動はいかに立ち上がり、うねりとなり、国境を超えて世界へと共鳴を広げていったのか。BLM からの告発に、レイシズムが蔓延る現代を生きる私たちは、何を学ぶべきなのか。歴史、政治経済、文学、思想、教育、芸術、ジェンダー、国際法など多様な立場から呼応する。

また、帯の背には「レイシズムを乗り越えるた

めに」と記し、セミナーと書籍が企図したレイシズムとの対峙をアピールしました。カバー袖には執筆者名とともに執筆者の専門分野を並べました。

BLM 運動の解説書ではなく、まさにタイトルの通り、各執筆者が BLM 運動から学んだことが収められた本になりました。本書を通じて執筆者が学んだことを知るだけでなく、本日の合評会のように、この本から学び合う場が各所で開かれることを願ってやみません。